

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

1 鉄道は、人間の考案した移動の手段としてはもっとも近代的な精華である。自動車は馬車の発展形に過ぎず、個人性が強く、走行条件も基本的には選ばない自由性を具えている。航空機は、もっとも後発で最近の道具であり、製造コストの高価格と滑走路という不可欠条件さえ除けば、到達距離と時間短縮の点で最大限の自由度を有する。ところが、鉄道は、走行を円滑にするためと、速度を増加させるため、かつ大量輸送のためとで案出された鉄道を絶対条件とする限定性を負っている。単一軌道で単一車輛が一方にのみ走行するなら難儀はないが、複数車輛が単線上を双方向で走行するとすると、発地それぞれの時間 \parallel 時計が異なっていては、即刻、衝突の惨事を招来することになる。

世界最初の鉄道営業運行は、一八三〇年九月一日、イギリスのリヴァプール―マンチェスター間で始まった。蒸気機関という最新の動力発生装置や、機関車をはじめ貨客車輛から軌道、駅舎、橋梁など、産業革命が生んだ大量の鉄鋼製品で埋め尽くされた鉄道は、時代の粋、花形であった。だが、その一方で、時間を存立の必須条件とするという、きわめて特異、近代を象徴する発明装置だったのである。そして、なによりも、地域ごとに異なっていた、ないしは微妙にずれていた時間を広範囲に統一するという絶大な波及効果をもたらしたことに注目せざるをえない。

通信装置が精巧化し瞬時に意思を伝達し合える今日でこそ、遠隔地同士が時間の一体性を共有することは自明のことになっている。だが、電信出現以前の当時にあって、鉄道が、そもそも運行の必要から時間 \parallel 時計の共通化を生み出しながら、逆の作用として各地域の側に、地域を越えて共通時間をもたらすことになった。さらには、これも鉄道とともに一般化することになった時刻表という記録簿に裏付けられて、人びとは何処の地域にいても、ひとつの時計に従って行動することが可能となったのである。換言すれば、人びとの行動が、ひとつの時計の下に収斂しゅんかんされるようになったともいえよう。これの延長線上には、一国単位で、全国一律の時間 \parallel 時計の共有、すなわち時法の統一がある。

一時法について付言しておこう。時法とは時の数え方についての定めのことだが、かつて日本では、一日を十二等分し、それを日の出から日没までを六等分、その他を六等分と定めていた。人びとは夜明けとともに起き出し、夜の到来により休息するという、きわめて自然な生活をしていたということだ。これを不定時法という。なぜなら、夏季と冬季で一刻の長さ(いまのほぼ二時間にあたる)に違いが出るからで、江戸時代に使われていた櫓時計では、齒車の進度を制御する錘おもりに絶えず調整を加えなければならなかった。そこで、明治新政府は、近代化政策のひとつとして維新後間もない明治六年(一八七三年)一月一日を期して、今日のような、太陽の見かけ上の運行とは無関係に一日を二四等分する定時法に改めた。当然のこと、それまでの太陰暦に代わって、太陽暦(グレゴリウス暦)にも改める、改暦も行った。この改暦は、明治五年(一八七二年)一月九日に出された大政官布達によってなされている。ちなみに、日本における鉄道事業の開始は汐留―横浜間であったが、それは明治五年(一八七二年)九月一二日のことであった。この近接さは、たんなる偶然ではないだろう。

現在、日本の各地、山間の僻村などに行くと、一日の決まった時刻にサイレンや有線放送で時を報よせる大音響が流れることがある。これの始まりは、改暦に先立つ明治三年(一八七〇年)九月、大阪城で放たれた「午砲」であったとされる。これはヨーロッパの時計塔に当たるものといえるだろう。地域に暮らす人びとが時間を共有する仕掛けは、鉄道だけでなく、さまざまなところに設けられるようになったわけで、それがしだいに拡大し、止めを刺すのはラジオ放送開始(一九二五年三月二日)とともに流れた時報の信号音であった。これにより、人びとは、国全体で一体のものとして時間を体感するとともに、個人と全体との一体感、連帯感を我が物とするようになったのである。

くわえて、一八八四年にはワシントンで「本初子午線及び計時万国公会」が開催され、ロンドンの東郊グリニ

ツジを通る経線を本初子午線と定めることが議決された。つまり、世界標準時の原点をグリニッジ (GMT II Greenwich Mean Time) とし、世界各国はそれぞれ子午線を定めグリニッジとの経度差 (経度一五度を一時間とする) によって各国の標準時を決めることになったのである。日本は、兵庫県明石市付近の東経一三五度線を日本の子午線とし、グリニッジとの時差は九時間となった。ようするに、時差という概念を組み込むことで世界はひとつの時間 II 時計に統一されたということである。

今日、各種の商品、株式、債券、為替市場が世界各地にあり、毎時、どこかで開場しているために、企業、金融機関の資金運用部門や管理監視機関は昼夜の区別なくこれに対応しているのも、世界がひとつの時間で活動しているからにほかならない。また、専門家ならぬ一般の人びとにおいても、インターネットや衛星メディアなどが世界一元時間の大きな促進装置になっている。かつて、日本から欧米へ移動するには数カ月の時間を要したが、いまや、航空直行便で行けるところなら世界ほとんどの場所に十数時間もあれば立つことができる。所謂、時差ボケは、緩やかな馴致が可能な時代には思いもよらないことで、世界の時間がひとつになったからこそ起こっている肉体现象なのである。

近代における文化、社会時間のもうひとつ余論を書き添えておこう。

³ 近代という時代を象徴する資本主義という社会、経済システムもまた時間を巧妙に作為することで機能する仕掛けだといえる。資本主義経済の根幹をなすのは自由市場原理だが、そこでは、物資が売買されるだけでなく、株式や債権、各種の金融商品、為替という名の貨幣までが取引されている。そこに資金を投入する人びと、機関は投資家と呼ばれ、物資生産とは無縁の利益を得ようとする。投資とは、結果不確定な事物に対し賭博を行っていることと同義である。つまり、本来未知であるはずの結果を、時間的に先延ばしにすることで、その間の時間差で利益を上げようとするのが投資なのである。利潤や利息もその時間差が生み出す富である。それをさらに先鋭化させたのが先物市場といわれるギャンブル性の高い仕組みだ。非現実的な時間格差が甚大な富を生むこと、その工学的な時間メカニズムに着目したディーラーたちが、次々に新たな金融商品を案出し、人びとの欲望をことさらに煽ったことは記憶に新しい。だが、そうした投機精神は、資本主義というシステムがもつ、ごく自然な本質の素直な表現であることは間違いがない。そのメカニズムを対象とする分野が「金融工学」と呼ばれるのはいい得て妙である。

こうした社会、文化現象は、近代における時間の特徴をよく示している。時間の世界的な一元化と共有化は、人びとの日常生活を局所的な位相と地球規模の位相とを曖昧なものにさせた。グローバリズムが、一面で多分の課題をはらみつづ、一般人の間に違和感なく受け入れられている所以^{ゆえん}である。

そして、これを支えているのは、いうまでもなく、工業化の精華であった。時間によって生活を律するという生活様式は、全体的なレベルにとどまらず、個人の場合においても積極的に支持されていたわけで、ここにも技術の成果が表れていた。ヨーロッパでは、一三〇〇年代の初頭に大型の機械時計が教会堂など人びとの関心を引く場所に出現した。その後、計時機構の小型化が徐々に進み、十六世紀には懐中時計が、そして二十世紀には腕時計が一般化するようになった。⁴ 個人が計時装置を、常時、着用、携行するということは、時間の個別化の直接的な象徴であり、見方によっては、人間が時間の従僕、奴婢に囚われるようになったともいえるだろう。事実、社会機構の側からは、人心収攬のあらゆる道具として、時間を用いる場面が格段に増えることになった。つまり、時間管理という一点において、個人と社会組織とが一致することになったのである。個人においては自身の生活時間を十全に管理できる人間こそ優れた資質をもつものと評価され、組織においては効率的な時間管理の達成こそ優良組織の目標と見なされるようになった。

近代社会を動かす緊要な時間理念は、「時は金なり」や「時間厳守」に端的に表れている。そして、人びとは、近代において、きわめて合理的に整備されるようになった組織体である「学校、軍隊、工場 (企業)」を通して、それらの理念を体得してゆく。これらの組織は、それぞれ「知識の獲得」、「安全の保障」、「利潤の追求」という

合目的的に形成された集団であり、それは同時に、そこに帰属する各個人の精神的、物質的利害とも一致するところであった。組織の規律を遵守し、組織の維持保全に結びつくためには、集団行動が必須な時間の厳守が、各成員にとりわけ強く求められた。組織を構成する個々人は、その一方で、自己や係累の維持を希求する主体であり、時間厳守の理念を積極的あるいは消極的に受け入れて、生活のリズムをそれに合わせるように日常生活を形づくったのである。

(山本雅男『近代文化の終焉』による)

問一 傍線部1「鉄道は、人間の考案した移動の手段としてはもつとも近代的な精華である」とあるが、他の交通手段と比べて鉄道はなぜ「もつとも近代的な精華」だと言えると、筆者は考えているか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 鉄道の便利さが、より効率的な方法を選ぶ近代資本主義社会の性質を加速させたから。
- ロ 鉄道が国内の時間の統一を促すことで、お金によってお金を稼ぐ資本主義の究極の形を作り出したから。
- ハ 鉄道は鉄路を走らなければならない限界があるので、事故を防ぐために時間を共有しなければならなかったから。
- ニ 鉄道を発展させるために、それぞれの地方でちがっていた時間をグリニッジを基準とした標準時に統一する契機となったから。
- ホ 鉄道は他の交通手段よりも不便な面があったものの、大量の物資を運ぶことができる利点があったので、産業革命をもたらすことができたから。

問二 傍線部2「ラジオ放送」は何をもたらしたと言えるか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ みんなが同じ時間によって同じリスクを取る平等な競争社会。
- ロ みんなが同じ時間によって経済活動に参加している資本主義社会。
- ハ みんなが同じ時間によって利益を上げることができる資本主義社会。
- ニ みんなが同じ時間を共有しているという共同意識に支えられた国民国家。
- ホ みんなが同じ時間を時差を含みながら受け入れているグローバルな国民国家。

問三

傍線部3「近代という時代を象徴する資本主義という社会、経済システムもまた時間を巧妙に作為することで機能する仕掛けだといえる」とあるが、この文章について次の(Ⅰ)(Ⅱ)に答えよ。

(Ⅰ)「近代という時代を象徴する資本主義という社会、経済システムもまた時間を巧妙に作為することで機能する仕掛け」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 貨幣は物に対する対価なのに、時間差を物であるかのような価値のある金融商品としたこと。

ロ 時間差が利益を生むシステムに注目して、時間差を複雑に組み合わせた金融商品を開発したこと。

ハ 物を作る段階とそれを商品化する段階には時間差があるのに、自由市場原理においてその時間差を無化したこと。

ニ 未来においては利益が確定するかどうか予測不可能なのに、それが可能であることを前提として金融商品を開発したこと。

ホ 利益が確定するのはあくまでも商品が売れた時点なのに、確定の時点を不明確にすることで確実に利益が上がるようにみせかけたこと。

(Ⅱ)「近代という時代を象徴する資本主義という社会、経済システムもまた時間を巧妙に作為することで機能する仕掛けだ」と述べているが、「もまた」に注目すれば、「資本主義という社会、経済システム」以外にも「時間を巧妙に作為」している事実があることを示唆していることがわかる。それは何か。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ ヨーロッパの時計塔とラジオから流れる時報では受け止め方が異なっているのに、日本の時間の感じ方は世界の時間の感じ方と同じだと錯覚させたこと。

ロ 月の満ち欠けを基準とした太陰暦と太陽の運行を基準とした太陽暦は異なっているのに、太陽の見かけ上の運行とは無関係な太陽暦を近代的だと錯覚させたこと。

ハ 鉄道と他の交通機関とは設備費も用途も異なっているのに、時間的効率という点においてどちらも資本主義経済に同じように貢献する仕組みを作り上げたこと。

ニ 不定時法のような自然に即した時間と世界標準時とはかけ離れているのに、世界標準時の方が組織の規律を高めるためにはより有効であるかのように思わせたこと。

ホ 人々に自然と感じられる時間は地域ごとに異なっているはずなのに、時差を設定することによって世界中が一つの時間を共有しているかのようなフィクションを作り上げたこと。

問四

傍線部4「個人が計時装置を、常時、着用、携行するということは、時間の個別化の直接的な象徴であり、見方によっては、人間が時間の従僕、奴婢に囚われるようになったともいえるだろう」とあるが、この文章について次の(Ⅰ)(Ⅱ)に答えよ。

(Ⅰ)近代社会において「有能な人」と見なされるためには、本文の趣旨に従えば何が最も重要か。本文中から四字で抜き出し、記述解答用紙の所定の欄に記せ。

(Ⅱ)「人間が時間の従僕、奴婢に囚われるようになった」とは、たとえばどういうことか。それを具体例をもって説明した次の文の空欄に入るべき単語として最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、解答欄にマークせよ。

その人ごとに質が異なっているはずの **A** が時間によって計量化・均質化され、一時間何円という具合に **B** 化されること。

イ 金融 ロ コスト ハ 商品 ニ 生活 ホ 資産 ヘ 労働

問五 次のの中から本文の趣旨として最も適切なものを選び、解答欄にマークせよ。

- イ 鉄道による全国的・世界的な時間の統一によって、産業革命による工業化がさらに進んだ。
- ロ 鉄道はより多くのものをより遠くへより早く運ぶという近代資本主義社会の性質を加速させた。
- ハ 鉄道には限界があるので他の交通機関の発達を促進し、産業革命以降の資本主義経済の発展に貢献した。
- ニ 鉄道が全世界的な時間の統一を促して、時差によって利潤を生み出す資本主義経済の究極の形を作り出した。
- ホ 鉄道によってそれぞれの地方ごとの時間が国家規模・世界規模でも統一されて、近代資本主義社会を支えた。

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

注①
ラフカディオ・ハーンは書くことで彼の内なる「日本」をさらに内に封じ込めようとした。美しい日本の過去が失われていくことを知っているからこそ書かねばならなかった。折に触れ彼がそんな自分を浦島になぞらえたくなったのも諸なるかなである。日本の各所をめぐる彼のエッセイ紀行は、いわばその玉手箱を一つずつ開ける行為に等しい。

数年ぶりに松江ほかを訪ねた折の印象を書きとめた「出雲再訪」(一八九七)は、そんな彼の夢と失意の二重構造を象徴的に示した作品である。彼はかつてそこで教えたことのある松江の尋常中学校を訪問し、まず創立当初の卒業生の軍人が行った日清戦争の実戦談の講演に付き合う。それから夜の宴会に招かれて舞妓の歌う軍歌に聞き惚れる。国家の栄光へのトウスイと敵への侮蔑を抑制した彼女の歌いぶりに讃辞を惜しまないここでのハーンの感性は、国家との昂揚した一体感に傾斜していく当時の民衆のナシヨナリズムの意識とさして変わらないものだろう。日本の民衆に対する共感を自覚するところに、異人のハーンは、自分が日本の土地に抱かれてあることを確認しているのであろう。にもかかわらず彼はそのアイデンティティにみずから破れ目を見出してしまふ。ハーンはその舞妓に「浦島」の舞をリクエストするのだ。子どもの頃の彼女の「浦島」の舞姿を覚えていて頼んだのだが、その時の彼女は翁の面を使った。禁忌の蓋を開けて変貌したあの浦島の顔である。舞が終わって彼女はハーンにその面を見せに来る。

《その厚紙でできた面貌は嘲けるのかのようにかすかに私に似ていた》。彼の感情が、翁の面を見てから微妙に内側に屈曲していく。ハーンがただ自分の老醜を嘆じてだけいるのではないことは、その面が変貌した浦島の顔を表しているところからわかる。《何かが失われていた》。この喪失感、彼の日本に対する幻想がもはや覚醒を余儀なくされていたところに起因していた。

私には分からない(「失われた魅力」の正体が——引用者)。しかし、やがて私は、人の幸せの大方はものの実体を知らぬことにあるのではないかと考えはじめていた。表面の下を覗かぬこと。精神的に近視であること。そして赤裸々な現実を知らぬこと。このとき私の心にあの奇妙な日本の諺が新たな意味をもって整ってきた。「A」

「日本からの手紙」と同様に、ハーンはこのエッセイでも、軍国体制下のこの国に、古き良き日本、神仏に対して敬虔であり、その精神を守り抜こうとする、彼にとつての好ましき「日本」をつとめて見出そうとしている。だが、そのような彼の夢想と願いを、強国化を必至として肥大していく帝国日本の現実がうまく抱擁出来ようはずがなかった。

彼自身が変わらなければならなかった。精神的近視を自らに課すこと。それは彼にとつて生きていくために避けられぬ知恵だったわけだが、見えてしまう眼をあえて曇らせることは、玉手箱の中身を知った上でそれを開けぬことと等しく、幻影の虚妄に耐える空しい作業であったはずだ。かくしてハーンの内部では、近代以前から民衆が持続させてきた日本の風土と近代国家が変質させていく現実の空間は、乖離しないわけにはいかなかった。そしてこの乖離の局面において彼が選り取るのが、ほかならぬ日本の女性たちなのである。

例えば「勇士」(『東の国から』所収)は、その乖離すらにも近視であることを強しようとする苦々しい意識が伏在する、複雑な味わいを持った作品である。来日中のロシア皇太子が巡査に切りつけられて負傷した一八九一年の天津事件の際に自刃し、当時から「烈女勇士」として世に知られた畠山男子が取り上げられている。天皇がロシア皇太子の負傷を憂慮していることが民衆に伝わる。民衆は祭宴を自粛し、天皇の悲嘆に同調しようとする。日本の神(そして天皇)への信仰の厚い一人の若い女中、勇士もまた心を痛め、死神のお告げで自分の身体を捧

げることを決意する。彼女は京都に赴き、自分の意図を遺書にしたためて自刃する。ニュースはすぐに全国に流され、天皇にも彼女の思いは知られるところとなった。この話は勤皇の精神が明治の民衆にも受け継がれていることを示す美談として終始している。しかし、ハーンは次の一行を結末に置かざるを得なかった。彼の無念と虚脱がうかがわれる一行である。——《ただし、国家の高度な判断によって、勇士の死が公に頌されることは一度もなかった》。

「勇士」と同じく名もない一人の女性を扱った「お大の場合」(『日本雜記』一九〇二)の場合、公権と民衆の乖離の問題が、共同体と個人の関係としてあらわれており、しかもキリスト教と仏教との相剋という宗教的な陰影をも与えられることで、ハーンの本シズムはより深められている観がある。キリスト教に改宗したお大は宣教師の言いつけに従って、彼女の家の仏壇から家族の位牌と祖先の戒名を記した巻物を取り出し、それらを泣く泣く川に投げ捨てる。その時点から彼女の周りの世間の人々の無言の抑圧が始まる。お大は土地を離れる宣教師たちに助けを求めるが、彼らは彼女の苦悩を理解せず、冷酷にその嘆願を突っぱねる。結果、路頭に迷い出たお大は身を持ち崩して淪落し、大阪に売り飛ばされてしまう。

ハーンはここでも例によって含みのある結語を用意している。

こうしてお大は、都会にうずまく肉欲の坩堝くわつぽのなかへ投げこまれ、永久に消えた。……おそらく彼女は、外国の宣教師の誰もが努力して理解しなければならぬ事実の、一例を示すためにのみ存在した女だったのだろう。

外国人宣教師たちが理解しなければならなかった事実とは何か。それはお大を圍繞いらいする日本の地域共同体の論理であろう。お大を追いつめていく人々の無言の論理を、ハーンは彼なりの想像力で次のように補足している。

——日本という国では原初の時代から過去・死者・祖先に対する敬愛によって社会秩序を守ってきた。その敬愛は現世・来世を問わず、親子や主従などの上下関係を規定するものである。死者と祖先が現世の子孫に決定的にクンリンクンリンしているからだ。必然的に、死者と祖先を冒瀆ぼうとくすることはこの国では償いのきかぬ罪となる。それゆえ、《孝行という至高の徳にそむき、祖先の宗教にそむき、信仰と感謝と尊敬と義務にそむき民族のいつさいの道徳的経験にそむいて、お大は、許すことのできない罪をおかした。だから世間の人々は、彼女を汚れた畜生——路上の犬や屋根の上の猫にも劣つたもの、親切にするねうちのないものと考えなのだ》。

⁴ ハーンはこの共同体の論理に対する批判を口にするのももちろん避けている。むしろ彼は外国人宣教師の日本的精風土に対する無理解に対して義憤を洩らしているようにも見える。にもかかわらずこの「お大の場合」がキリスト教批判を企図した文章かという点、そういうわけではない。キリスト教という「外部」をはじき出してしまふ(だから内と外との対立が深刻に現前することがない)日本の共同体のモラルを、ハーンが

B

C

に帰していることはさまざまな点から興味深い。例えばここに、ハーン没後十年足らずで書かれた森鷗外の「⁵」(一九二二)を参照してみてもよいだろう。ハーンには『心』(一八九六)に収められた「祖先崇拜の思想」という文章があり、スペンサー流の社会進化論を神道の祖先崇拜の思考と統合しよう

と試みているが、これは鷗外の小説が五條秀麿を通して進化論と祖先崇拜・天皇制という近代日本のパラダイムの亀裂を乗り越える困難さを描いているのと比べると、かなり楽天的なものである。したがって、「お大の場合」においても、お大に同情して祖先崇拜を信奉する共同体を批判するという立場には必ずしも立たないわけである。それでもなお、ハーンが勇士やお大のような女性の「単独者」に感情移入したことの意味は決して小さくはないはずである。かたや烈女として崇められ、かたや畜生にも劣る墮ちたる女として否定された二人の女性に共通しているのは、自己個人の信念・信仰に忠実たらしめたことであり、それが国家や共同体の規範と齟齬そごを来し

てしまっている点である。ハーンが自己と同時代の日本との間に、翁と化した浦島の面を差し挟まなければなら

なかったことと、少数者としての彼女たちの孤立はどこかで通い合っていたはずである。

(坪井秀人『性が語る』による)

注① ラフカディオ・ハーン：小説家、日本研究者(一八五〇～一九〇四)。日本名、小泉八雲。ギリシヤに生まれ、新聞記者として来日し、日本文化に関心を抱いて執筆活動等を行った。

問六 傍線部甲・乙の片仮名を漢字に改め、記述解答用紙の所定の欄に楷書で記せ。

問七 傍線部1「彼がそんな自分を浦島になぞらえたくなったのも諾なるかなである」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 昔の日本に心ひかれるハーンが、目の前の時代から取り残されてしまった浦島を、自分のことのように考える行為は、日本人なら誰しも理解できる。

ロ 昔の日本に心ひかれるハーンが、日本人なら誰もが知っている昔話の中に自分の姿を見いだそうとする行為は、誰しも賛成する。

ハ 昔の日本に心ひかれるハーンが、昔のことしか覚えていない浦島に自分を重ねてみようとする行為は、誰しも納得できる。

ニ 昔の日本に心ひかれるハーンが、過去の楽しい思い出を持っている浦島の姿の中に自分を見いだす行為は、誰しも従わざるを得ない。

ホ 昔の日本に心ひかれるハーンが、開けてはならない箱を開けてしまうという浦島の心情に共感するという行為は、日本人なら誰しも許すことができる。

問八 傍線部2「彼はそのアイデンティティにみずから破れ目を見出してしまふ」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ ハーンが浦島の舞を見るときに、浦島を演じる美しい舞妓の姿と、彼女がかぶる翁の面との間に、ずれを感じはじめようになっていたため。

ロ ハーンが日本の民衆に対して抱いていた感覚と、日本の民衆がハーンに対して抱いていた感覚の間には、実際にはずれが生じはじめていたため。

ハ ハーンがその時に見た舞妓の舞が、かつて見た幼少期の舞妓の舞が未熟であったことを、彼に意識させてしまったため。

ニ ハーンが浦島の舞をリクエストしたにもかかわらず、現在のハーンにとってその舞の表現が十分共感できるものではなくなっていたため。

ホ ハーンは日本の民衆に共感し、帰属しているという感覚をもっていたが、彼のそもそもイメージしていたかつての民衆が、実際には変わりつつあったため。

問九 空欄 A に入る「日本の諺」として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 一寸先は闇 口 言わぬが花 ハ 嘘も方便 ニ 知らぬが仏 ホ 習わぬ経は読めぬ

問十 傍線部 3 「その乖離すらにも近視であることを強いようとする苦々しい意識が伏在する」とあるが、これは具体的に誰のどのような行為を指したのか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 日本の国内のこのみを考えて政治的な判断を下せばよかった時代が、外国との関係の中で政治的な判断を下すことが必要な時代が変わっているにもかかわらず、ハーンがそこから目をそらしてしまっていること。

口 民衆の一人が天皇の心情を思い、自ら死を選ぶという行為と、天皇を中心とする近代国家の組織やその政策との間には隔たりがあることを意識しているにもかかわらず、ハーンがその意識を抑えつけようとしていること。

ハ 民衆の行為を讃えたいという政治家の個人としての判断と、国家全体として下すべき判断とは必ずしも一致しないにもかかわらず、ハーンがそれを無視してしまっていること。

ニ 日本の民衆が外国人に対してもっている意識と、日本という国家が外国に対して示すべき態度との間には大きなずれがあるにもかかわらず、ハーンがそれを議論することを避けてしまっていること。

ホ 国家元首としての天皇の判断や考えと、国家の実際に下す政治的な判断との間には大きなずれが生じているにもかかわらず、ハーンがそれに対する判断を曖昧にしていること。

問十一 傍線部 4 「ハーンはこの共同体の論理に対する批判を口にすることはもちろん避けている」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 共同体の論理を批判することは、ハーンが強く引きつけられている過去の日本から、自らを切り離すことにつながるため。

口 当時の日本では自由な言論は許されておらず、そうした批判を公然と行うことは、特に外国人のハーンにとって危険であったため。

ハ 多くの日本人達は共同体の論理に従っており、それを批判することはハーンが心を寄せる日本人達の反感をかう恐れがあったため。

ニ 共同体の論理は、当時の日本人であれば誰もが了解していることであり、ハーンが批判するまでもなく、誰もがその問題点も理解していたため。

ホ 共同体の論理は、日本人の内部に強く浸透しており、ハーンがたとえ批判したとしても、それで変えられるようなものではなかったため。

問十二 空欄 B に入る言葉を、本文中より五字以内で抜き出し、記述解答用紙の所定の欄に記せ。

問十三 空欄 C に入る作品名として、最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 小説神髓 口 浮雲 ハ にごりえ ニ かのやうに ホ それから

問十四 傍線部5「ハーンが勇子やお大のような女性の（単独者）に感情移入したことの意味は決して小さくはないはずである」とあるが、それはなぜか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ こうした事例は、共同体の論理にしたがっている日本の民衆の中に、自立した自我をもった近代的な精神をハーンが見いだしていたことを明らかにしてくれるため。

ロ こうした事例は、ハーンが単に日本を愛していたのではなく、国を超えて人間を愛していたという彼のヒューマニストとしての一面をも示してくれるため。

ハ こうした事例は、ハーンが日本人のすべてに心を寄せていたのではなく、自分をなぐさめてくれる人々にこそ心を引かれていたという事実を明らかにしてくれるため。

ニ こうした事例は、かつての共同体が人々を結びつけるばかりではなく、そこから孤立した弱者を生み出してしまふと、ハーンが意識していたことを示してくれるため。

ホ こうした事例は、日本という異国で生活していたハーンの孤独が、彼が描いた女性達の孤独と共鳴していることを示してくれるため。

(三) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

月にはかられて、夜深く起きにけるも、思ふらむところいとほしけれど、¹たち帰らむも遠きほどなれば、やうやうゆくに、小家などに例おとなふものも聞こえず、くまなき月に、ところどころの花の木ども、ひとへにまがひぬべく霞みたり。

いま少し、過ぎて見つるところよりも、おもしろく、過ぎがたき心地して、²そなたへとゆきもやられず花桜にほふこかげにたびだたれつつ

と、うち誦じて、「はやくここに、物言ひし人あり」と思ひ出でて、立ちやすらふに、築地のくづれより、白きものの、いたう咳きつつ出づめり。あはれげに荒れ、人けなきところなれば、ここかしのぞけど、とがむる人なし。このありつるものの返る呼びて、「ここに住みたまひし人は、いまだおはすや。』³山人に物聞こえむといふ人あり」とものせよ」と言へば、「その御方は、ここにもおはしませず。なにかいふところになむ住ませたまふ」と聞こえつれば、⁴「あはれのことや。尼などにやなりたるらむ」と、うしろめたくて、「かの光遠にあはじや」など、ほほゑみてのたまふほどに、妻戸をやはらかい放つ音すなり。

をのことも少しやりて、透垣のつらなる群すすきの繁き下に隠れて見れば、「少納言の君こそ。明けやしぬらむ。出でて見たまへ」と言ふ。よきほどなる童の、やうだいをかしげなる、いたう姿えすぎで、宿直姿なる、⁵蘇芳にやあらむ、つややかなる相に、うちすきたる髪のみすそ、小桂に映えて、なまめかし。月の明きかたに、扇をさしかくして、「月と花とを」と口ずさみて、花のかたへ歩み来るに、おどろかさまほしけれど、⁶しばし見れば、おとなしき人の、「季光は、などか今まで起きぬぞ。弁の君こそ。ここなりつる。参りたまへ」と言ふは、ものへ詣づるなるべし。ありつる童はとまるなるべし。「わびしくこそおほゆれ。さばれ、ただ御供に参りて、近からむ所に居て、御社へは **A**」など言へば、「**B**」など言ふ。

みなしたてて、五、六人ぞある。下るるほどいとなやましげに、「これぞ主なるらむ」と見ゆるを、よく見れば、衣ぬぎかけたるやうだい、⁷ささやかに、いみじう鬼めいたり。物言ひたるも、らうたきものの、ゆうゆうしく聞こゆ。「うれしくも見つるかな」と思ふに、やうやう明くれば、⁸帰りたまひぬ。

日さしあがるほどに起きたまひて、⁹昨夜のところに文書きたまふ。「いみじう深うはべりつるも、ことわりなるべき御気色に出ではべりぬるは、つらさもいかばかり」など、青き薄様に、柳につけて、⁸さざりしいにしへよりも青柳のいとどぞけさは思ひみだるる
とて、やりたまへり。返事めやすく見ゆ。
⁹かけざりしかたにぞはひしいとなれば解くと見しまにまたみだれつつ

(『堤中納言物語』による)

注① 月と花とを…「あたら夜の月と花とを同じくは心知れらむ人にみせばや」(『後撰集』)を踏まえる。

問十五 傍線部1「思ふらむところいとほしけれど」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解

答欄にマークせよ。

- イ 今別れてきた女の心中が不憫に思われるけれども
- ロ 月を愛でている風流心が好ましく思われるけれども
- ハ これから帰ることを考えとつらく思われるけれども
- ニ 女房たちが起きてこない気持ち寂しく思われるけれども
- ホ 月明かりに自分の姿があらわれるのが恥ずかしく思われるけれども

問十六 傍線部2の和歌「そなたへとゆきもやらねず花桜にほふこかげにたびだたれつつ」の意味の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 疲れはててこのまま先に進むこともできないことだ。美しい桜の木陰でしばし休んでから旅立とう。
- ロ 訪れたことのあるこの家を見過ぎすこともできないことだ。美しさの匂いたつ桜に心がひかれてしまう。
- ハ 香の匂い立つ木陰を忘れることもできないことだ。その思い出深い桜を探す旅に出てしまいたい。
- ニ 桜の開花するまで立ち去ることもできないことだ。木陰にたたずみ、花の咲くのを待つて旅に出よう。
- ホ ここを通り過ぎることもできないことだ。美しい桜に心ひかれて、その木陰に足が向いてしまう。

問十七 傍線部3「山人」は、具体的には誰を指すのか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 白い装束を着た女
- ロ この庵の尼
- ハ ここに住んでいた女主人
- ニ 「光遠」と名乗った男
- ホ 同行した供人

問十八 傍線部4「聞こえつれば」は誰に対する敬語か。最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 少納言の君
 - ロ 庵の尼
 - ハ この家を訪れた男
 - ニ この家の主人
 - ホ 居合わせた木こり
- 問十九 傍線部5「おどろかさまほしけれど」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 「季光」をびつくりさせたいのだけれど
- ロ 大人びた女房にいたずらをしたいのだけれど
- ハ ねほけまなこの童を目覚めさせたいのだけれど
- ニ 女の子に歌でも詠みかけ注意を引きたいのだけれど
- ホ 寝過ぎしている「弁の君」を起こしたいのだけれど

問二十 空欄 A には、動詞「行く」の一語の謙譲語が入る。その語を本文に入るように適切に活用させて、記述解答用紙の所定の欄に、平仮名(歴史的仮名遣い)で記せ。

問二十一 空欄

B

に入る最も適切な語を、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ やれうれしや
- ロ ものぐるほしや
- ハ あはれこひしや
- ニ いとおとなしや
- ホ あたらしや

問二十二 傍線部6「ささやかに、いみじう兎めいたり」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選び、

解答欄にマークせよ。

- イ 小柄で、とてもかわいらしい
- ロ ちらっと見ると、かなり大人げない
- ハ はでで、大層子供っぽい
- ニ 言葉少なく、大変若々しい
- ホ まだ年若く、とてもいたいけない

問二十三 傍線部7「昨夜のところ」とは誰をさすのか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマ

ークせよ。

- イ 姿を消した女
- ロ 垣間見した女主人
- ハ 訪れた恋人
- ニ 歌を口ずさんでいた少女
- ホ 尼になってしまった女房

問二十四 傍線部8の和歌「さらざりしいにしへよりも青柳のいとどぞけさは思ひみだるる」には掛詞(懸詞)が一つある。その掛詞(懸詞)の片方の語を、記述解答用紙の所定の欄に、漢字、文字で記せ。

問二十五 傍線部9「みだれつつ」とは、誰のどのような心情を言う語か。最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 女が男の冷淡さを悲しんで心が乱れていること。
- ロ 男がほかの女のことでも心をかき乱されていること。
- ハ 思いがけない恋の始まりに女が惑乱していること。
- ニ またいつ会えるかわからないので男が不安に思っていること。
- ホ 黒髪を解かしてもすぐに乱れてしまうように女が悩んでいること。

(四)

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。なお、設問の都合上、返り点・送り仮名を省略した箇所がある。

北人不_レ識_ラ梅_ヲ、南人不_レ識_ラ雪_ヲ。蓋_ニ梅_ヲ至_ニ北方_ヲ則_チ変_レ而成_レ杏_ヲ。今_ニ江_ヲ湖_ヲ二_ヲ浙_ヲ、A月_ノ之_ノ間_ニ、梅_ヲ欲_シニ_ニ黄_ヲ落_セニ_ニ而_テ雨_ヲ謂_フ之_ヲ梅_ヲ雨_ト。転_ジ淮_ヲ而_テ北_ヲ則_チ否_ク、亦_チ地_ノ氣_ヲ然_ル也。語_ニ曰_ク、「南人不_レ識_ラ雪_ヲ、向_テ道_ヲ似_クニ_ニ楊_ヲ花_ヲ」。然_レトモ南方_ノ楊_ノ実_ハ無_シ花_ヲ。以_テ此_ヲ知_ル北人不_レ但_ニ不_レ識_ラ梅_ヲ而_モ且_ツ無_シ梅_ヲ雨_ヲ、南人不_レ但_ニ不_レ識_ラ雪_ヲ則_チ亦_チ不_レ識_ラ楊_ヲ花_ヲ矣。予_ク聞_ク閩_ノ中_ノ人不_レ識_ラ螃_ヲ蟹_ヲ、人_ノ有_リ得_ル一_ヲ千_ヲ螃_ヲ蟹_ヲ者_ハ或_ハ病_メ、則_チ掛_ケ之_ヲ門_ニ、其_ノ病_ヲ遂_ニ愈_ユ。沈_ノ存_ノ中_ノ曰_ク、「不_レ但_ニ人不_レ識_ラ、鬼_亦不_レ識_ラ也」。此_ハ又_チ可_シ笑_フ。

(陳善「捫蝨新話」による)

注① 江湖二浙：中国の長江以南の地で、今の江西・江蘇・湖北・湖南・浙江省一带。

注② 淮：黄河と長江のほほ中間を東流する、中国第四の大河。

注③ 楊花：ヤナギの種子を包む白い綿毛で「柳絮」ともいう。それが風に吹かれて舞い飛ぶ様は、中国北方における晩春の風物詩。「楊」はヤナギ。

注④ 閩中：現在の陝西省西安一带。中国北方の内陸に位置する。

注⑤ 螃蟹：カニのこと。

注⑥ 沈存中：北宋の学者、沈括のこと。

問二十六 傍線部1「蓋」の読みを、送り仮名も含めすべて平仮名で記述解答用紙の所定の欄に記せ。

問二十七 傍線部2「梅至北方則変而成杏」の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ ウメの木は北方に植えられると、自然に変異してアンズの木に変わる、ということ。
- ロ ウメは北方にはないので、北方の人はアンズの花を見てウメと見なしている、ということ。
- ハ ウメの実は北方では食べる習慣がなく、完全にその地位をアンズに奪われている、ということ。
- ニ ウメの実もアンズの実もいずれも酸っぱいので、南のウメに匹敵するのが北のアンズだ、ということ。
- ホ ウメの花は南方では全ての花木にさきがけて咲くが、北方では春が遅いので、アンズと同時に花開き混同される、ということ。

問二十八 空欄 A には、漢数字二字が入る。その組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 二・三 口 四・五 ハ 六・七 ニ 八・九

問二十九 傍線部 3 「亦地氣然也」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ それとともに気候も全く同じである。
- 口 それに加えて気候も同様に变化する。
- ハ そこでやつと気候がそのように安定する。
- ニ それもやはり気候の違いがなせる業である。
- ホ それはむろん気候の不安定さが引き起こすのである。

問三十 傍線部 4 「人有得一干螃蟹者」は、「(関中の)人の中に、干物のカニを一つ手に入れた者がいた」という訳になる。この訳を参考にして、記述解答欄の白文に返り点を記入せよ。ただし、送り仮名や振り仮名は付けないこと。

問三十一 傍線部 5 「不但人不識、鬼亦不識也」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 人間が干物のカニを魔除けとは知らずに使ったばかりか、邪鬼もそれを人が味わう食べ物と知らずに恐れをなしたのであった。
- 口 人間界で認識でないものは、霊界の鬼であれむろん認識できず、鬼もカニが敵か味方かも分からず、混乱して退散したのであった。
- ハ それはただ人間がカニの用途を知らなかっただけでなく、人に取り憑く邪鬼も初めて見る奇怪な形状に恐れをなして退散したのであった。
- ニ 病いにかかった人間が薬をもつかむ心地ですがったカニの干物であったが、偶然にも鬼の大的天敵であり、鬼も否応なく退散したのであった。
- ホ それはもっぱら無力の人間がカニの形状に畏怖を感じて魔除けとしただけでなく、馬鹿力の鬼でさえもカニの神通力に感じて身を引くほどであった。

〔以下 余白〕

早稲田大学 教育学部
2017年度 入試問題の訂正内容

<教育学部 一般入試>

【国語】

問題冊子 16 ページ：設問（四）問三十一 選択肢口 1 行目

（誤）

人間界で認識でない・・・

（正）

人間界で認識できない・・・

以上